

五日市街道ぞいにある、江戸初期の新田村落3ヶ村(松庵村・中高井戸村・大宮前新田)の開発の様相をたどる

約8,000歩

① 高井戸東遺跡 ▼ 高井戸東 3-7

昭和51(1976)年の発掘調査で多数の旧石器時代の石器とともに出土した、「局部磨製石斧」は考古学史上で特に重要な遺物です。調査の契機となった高井戸清掃工場建設は、昭和41(1966)年より9年間の「東京ゴミ戦争」で有名です。

② 松林寺 (3333)9142 ▼ 高井戸東 3-34-2

もとは「正林寺」と称しましたが、小字堂の上・堂の下・寺前と呼ばれた地域より現在地へ移転後、周囲に松が多かったため「松林寺」と改めたといひます。16世紀末開創の曹洞宗寺院です。

③ 五日市街道 ▼ 高井戸東 4-13

西多摩地方の炭荷等を江戸に運ぶ道として重要な道でした。現在の新高円寺駅付近で、青梅街道から南に分かれます。

④ 民間信仰石塔 庚申の藤 ▼ 宮前 1-17

庚申塔2基のうち、元禄9(1696)年銘のものには、「大宮前新田村」とあります。脇にある藤の木は樹齢300年の古木で、庚申塔と同じ頃に植えられたものと伝ひります。

⑤ 春日神社 (3329)0837 ▼ 宮前 3-1-2

武州豊島郡関村(練馬区)名主井口八郎左衛門らが寛文10(1670)年に開村した大宮前新田の鎮守社で、同氏により⑥と同じ頃に創建されたといひれます。祭礼時に奉納された大宮前里神楽を、大宮郷土芸能保存会が昭和53(1978)年に復活させました。



⑥ 慈宏寺 (3332)5957 ▼ 宮前 3-1-3

境内の大宮前「當村開起慈宏寺大檀那」供養塔は、江戸中期に大宮前新田の名主が、新田の開発者である祖先を供養するために造立したものです。また、明治初期に⑧円光寺が廃寺となった折、その本堂と本尊(木造馬頭観音像)が、この寺に移されました。17世紀後半開創の日蓮宗寺院です。



⑦ 松庵稲荷神社 (3329)0837 ▼ 松庵 3-10-3

松庵村の鎮守社。江戸時代には、明治初期に廃寺となった⑧円光寺の境内の中にありました。松庵村は、万治年間(1658～1660)に医者「松庵」が開いた村ともいひれます。

⑧ 旧円光寺歴住墓碑・供養塔 ▼ 松庵 3-10

円光寺は、明治初年の廃仏毀釈で廃寺となった天台宗寺院です。松庵新田の豪農で「江戸紫染め」を完成させた杉田屋仙蔵と、その指導者であった僧円光ゆかりの寺でした。

ワンポイント解説

～新田村落3ヶ村～

開発以前のこの地域は、武蔵野市、三鷹市一帯まで広がる幕府御用の茅場でした。中高井戸村の開発は、江戸に飲料水を供給する玉川上水(N-⑥)の開削で土地を失った、上・下高井戸村の人々が行いました。新田開発の地割は、五日市街道の南北に作業道を幾筋も直角に通してつくった、短冊状の細長い耕地が特徴で、その面影は現在の区画に残ります。